

東京七島新聞

発行所
東京七島新聞社
〒105-0022東京都港区海岸1-4-15
高輪会館2階

☎ 03 (6459) 0292
☎ 03 (6459) 0792
FAX 03 (6459) 0094
編集発行人 松本茂彦
振替口座 00160-9-99828
(購読料 1ヶ月800円)

大島支局
☎ FAX 04992 (2) 3540
☎ FAX 04992 (2) 1014
☎ 04992 (2) 1102
☎ 04992 (4) 0064

新島通信部
☎ FAX 04992 (5) 1323

式根島通信部
☎ 04992 (7) 0003
FAX 04992 (7) 0403

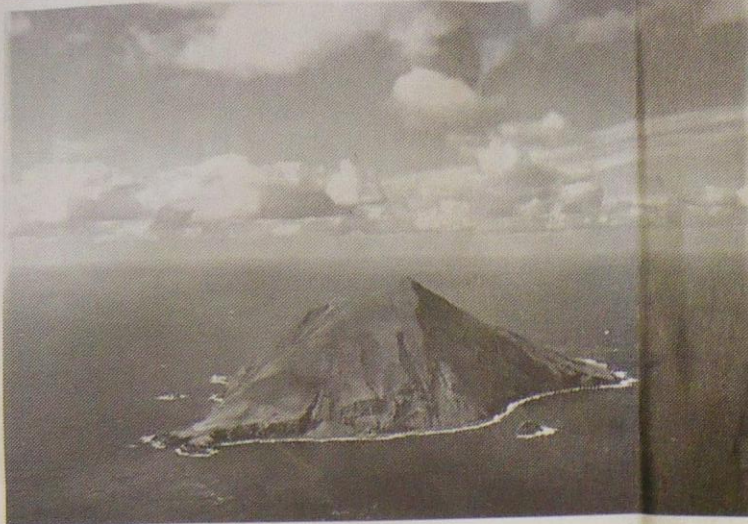
神津島通信員
☎ 04992 (8) 1047

三宅島支局
☎ 04994 (2) 0051
FAX 04994 (2) 0676
通信部 ☎ FAX (2) 0715

八丈島通信局
☎ 04996 (7) 0014
FAX 04996 (7) 0484

「八丈小島」題材に

島嶼コミュニティ学会



平成31年に全島民引き揚げから50年を迎える八丈小島

【八丈島】島嶼コミュニティ学会主催の第7回「八丈島フォーラム」が8月26日、七島信用組合八丈島支店の会議室で開催された。

第一部は「八丈島のこゝろ風土記（民俗誌）を創ろう」ことわざを介して捉える地域の文化―について明大名誉教授でNPO法人郷土のこゝろネットワーク・ことネット理事長の穴田義孝氏が講演し、ことわざに関するエピソード、使われる方、地域ではぐくまれてきた生活の知恵などを紹介したあと、実際に参加者がことわざエピソードを綴り、八

第二部は2年後の平成31年で、全島民引き揚げから50年という節目を迎える「八丈小島の生活や文化が主に取り上げられた。戦後の日本で唯一、八丈小島の宇津木村で行われた『村民総会』の事例や、初めての全島民引き揚げの事例があり、そのことが近年注目を集めており、40

人以上が参加した。フォーラムでは、最初に小島の生活や全島民が離島する際の引越した作業の様子や納められた貴重な2つのフィルムが上映され、参加者は映像に熱心に見入っていた。

また、幼少期に小島での生活を経験したことがある、八丈町大賀郷在住の浅沼宏雄氏（メンスサロン経営）の講演も行われた。小島での生活経験者が次第に少なくなっている中、当時の生活や、過酷さや、生活の知恵など、現代の生活からは想像しがたい話が多く聞かれ、大変貴重な機会となった。

この後、榎澤幸広名古屋学院大学現代社会学部准教授が、島民引き揚げの原因を考察し、天水に頼る水不足、

島の発展に奉仕する企業

三宅島建設工業株式会社

本社 東京都三宅島三宅村伊ヶ谷3333
〒100-1100 ☎04999420163 ☎04999421137

東京支店 東京都港区芝大門2-15-1アルテビル芝大門
〒105-0012 ☎03-3459-8086 ☎03-34335-9688

出張所 東京都御蔵島
〒100-1301 ☎04999422229 ☎04999423323

今回のフォーラムは全島民引き揚げから50周年という節目を迎える前に、あらためて小島の歴史や文化を学び、再認識する良い機会になったのではないかと参加者の多くは話していた。

また、翌日は渡船をチャーターして30人超が小島の鳥打地区に渡り、50年前まで生活が営まれていた住居、学校、戸隠神社跡、畑を見て回った。住まいは跡形もなかったが、石垣は当時をしのばせた。小島全体は緑に覆い尽くされていて、参加者は前日の映像と重ね、当時の生活に思いを馳せ、感無量だったと話していた。

キンメ漁の体験学習

新島村の中高生ら

【新島】新島村と、いじま漁協が8月19日、キンメダイの一本釣り漁の体験を行い、地元の中学生と高校生が参加した。

午前2時半、新島港B堤のいじま漁港前に集合した一行は、第八大三丸に乗り、大沼三郎船頭から注意事項を聞き、三宅島近海のキンメダイ漁場を目指して出航、船内で計器類の説明、漁の方法つ